

# JMRA事業計画プレゼンテーション

2017年5月26日

ハイアットリージェンシー東京

一般社団法人

日本マーケティングリサーチ協会

# JMRA事業計画 プレゼンテーションプログラム

---

◆ 15:00

開会

会長挨拶

産業ビジョン発表

委員会プレゼンテーション

- ・[国際委員会](#)
- ・[広報・交流委員会\(インターネット調査品質小委員会\)](#)
- ・[広報・交流委員会\(CLT対策小委員会\)](#)
- ・[西日本コラボレーション研究会](#)
- ・[人材マネジメント研究会](#)
- ・[公的統計基盤整備委員会](#)
- ・[リサーチアカデミー委員会\(出版分科会・研修分科会\)](#)
- ・[カンファレンス委員会](#)
- ・[事務局](#)
- ・[コンプライアンス委員会\(海外綱領分科会・国内法務分科会\)](#)
- ・[ISO/TC225国内委員会 兼マーケティング・リサーチ規格認証協議会](#)

16:45 閉会

◆ (17:00-19:00 情報交流会／別会場「白鳳」にて)

# 平成29年度 JMRA活動方針

---

平成29年5月  
JMRA会長  
内田 俊一

# 三役のご紹介

---

- ◆ 会長 内田 俊一(イプソス株式会社)
- ◆ 副会長 横田 進(株式会社アクセス・ジェーピー)
  - 会長代理五十嵐 幹  
(株式会社クロス・マーケティング)
  - 会長代理
- ◆ 専務理事 川本 聡史(株式会社日経リサーチ)
  - 事務局統括
  - Pマーク審査会管掌



# 平成29年度 スローガン

## 最もセクシーな業界を目指す

- ◆ 溢れるデータからストーリーを読み取り、ビジネスにインパクトを与える。そのような価値を創造する、オーケストラの指揮者のような役割が世界中で求められている。
- ◆ その為に既に我々にあるものは何か、何が足りないのかどう変わらなければならないのか。若い世代をいかに魅了していくのか。
- ◆ 協会メンバーベネフィットを明確に打ち出し、業界・市場規模拡大による財務体質強化を目指します。



# 重要活動方針

---

1. JMRA会員であることは、個人情報を守り、より良い社会の実現に資することを、社会へ約束する証である。このことを広く知らしめる。
2. 会員社同士の受発注システム構築・シェアリングエコノミーの推進によりビジネスチャンスの最大化を目指す。
3. 新卒採用フォーラム開催など、業界の認知度向上と活性化を図る。
4. セミナー・カンファレンスを通して最新の手法の生かし方を習得。新しい時代をリードする業界を目指す。

# JMRA50周年に向けた第一歩として

---

委員会、会員各社  
理事、事務局スタッフの皆さん  
協会活動を通じて  
我々リサーチ産業発展のため  
どうぞよろしくご協力お願いいたします。

---

JMRA事業計画プレゼンテーション

# 国際委員会

## JMRAの国際化への貢献

APRC/JMRAカンファレンス

APRC, GRBN, ESOMAR, etc.

各員会との協業の検討

## 若手育成

若手フォーラムの継続

(マーキングリスト目標500)

学生プログラムの検討

# 国際委員会

## -2016年度事業報告-

**ESOMAR**  
WORLD RESEARCH



佐野さん  
5年間ESOMAR日本代表  
お疲れ様でした！



細川さん  
ESOMAR日本代表の挨拶



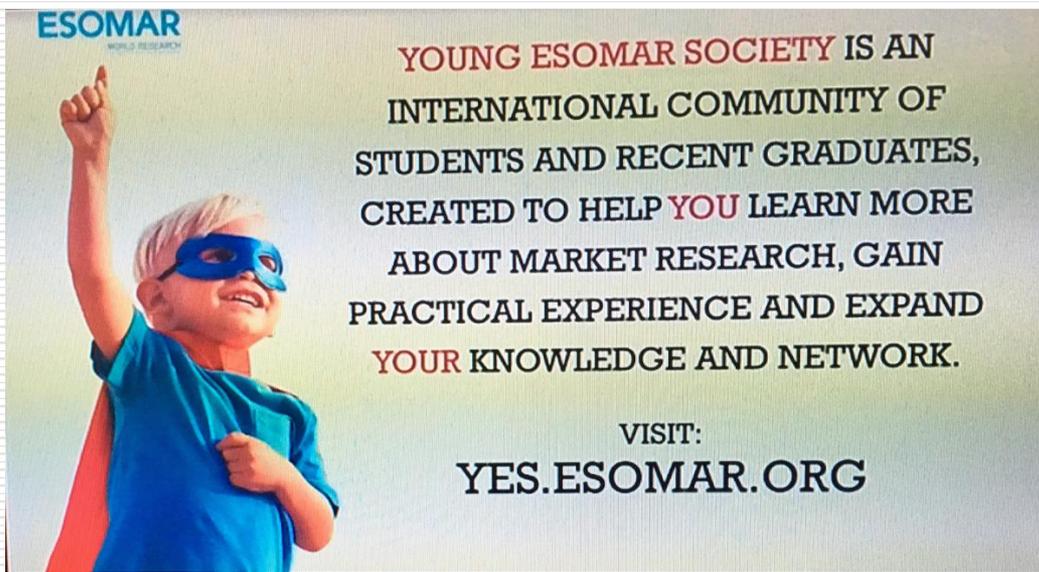
内田さん  
ESOMAR Program  
Committee

**ESOMAR**  
WORLD RESEARCH

ASIA PACIFIC 2016

Tokyo / 17-19 May

Get Connected!



**ESOMAR**  
WORLD RESEARCH

YOUNG ESOMAR SOCIETY IS AN INTERNATIONAL COMMUNITY OF STUDENTS AND RECENT GRADUATES, CREATED TO HELP YOU LEARN MORE ABOUT MARKET RESEARCH, GAIN PRACTICAL EXPERIENCE AND EXPAND YOUR KNOWLEDGE AND NETWORK.

VISIT:  
[YES.ESOMAR.ORG](http://YES.ESOMAR.ORG)

### 5/19 若手リサーチャーの招待 約20名



ASIA  
PACIFIC  
RESEARCH  
COMMITTEE



GLOBAL RESEARCH  
BUSINESS NETWORK

APRC • EFAMRO • ARIA

# Summit Meeting

## 2016 Tokyo



## Summit Meeting 2016 Tokyo

Photo

Photo



ASIA  
PACIFIC  
RESEARCH  
COMMITTEE

# Summit Meeting 2016 Tokyo

9力国  
30人

Photo





ASIA  
PACIFIC  
RESEARCH  
COMMITTEE

## Summit Meeting

2016 Tokyo

Photo



ASIA  
PACIFIC  
RESEARCH  
COMMITTEE

JMRA

# Collective

# Intelligence

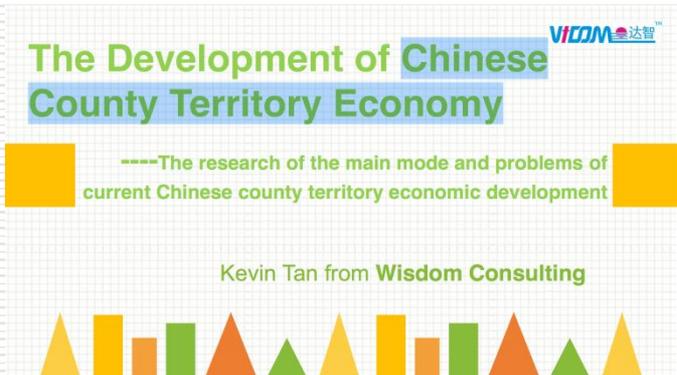
14th & 15th NOV 2016  
Hyatt Regency Tokyo  
Tokyo JAPAN

カンファレンス委員会との協業  
国際委員会枠APRC各国で発表  
当日のコミュニケーションサポート  
学生プログラムの試行

Photo

### APRC/JMRAカンファレンス2016

～各国リサーチ協会が推薦するエクセレントペーパーの発表 第1部～



### APRC/JMRAカンファレンス2016

～各国リサーチ協会が推薦するエクセレントペーパーの発表 第2部～

2016 APRC Conference, Tokyo

Presentation by  
Datin Kalavalli Sethu  
President of Marketing Research Society Malaysia  
Founder and Managing Director of Compass Insights Sdn Bhd



22 country Global Tourism Study

focusing on Singapore, Hong Kong, South Korea and Japan

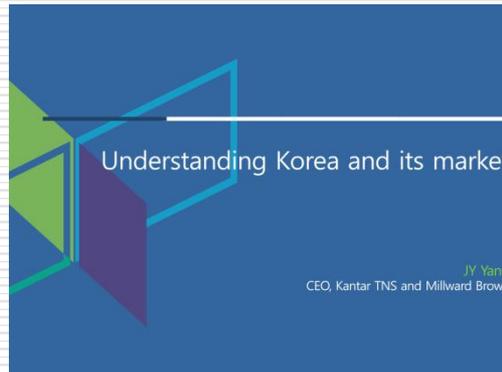
Research Now  
Asia Pacific

November 2016

The concepts presented in this presentation are property of Research Now Group, Inc. Duplication or dissemination of the information without the express written consent of Research Now is prohibited.

An Innovative Use of Simulation in Healthcare Market Research

November 15, 2016



Understanding Korea and its market

JY Yang  
CEO, Kantar TNS and Millward Brown

## APRC/JMRAカンファレンス2016

～各国リサーチ協会が推薦するエクセレントペーパーの発表 第3部～



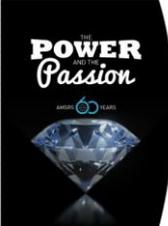
GLOBAL RESEARCH  
BUSINESS NETWORK  
APRC • EFAMPRO • ARIA • AMRA

Building Trust in Market  
Research – why we need  
to act now and what we  
need to do

Andrew Cannon, GRBN

APRC Conference  
Tokyo  
15.11.2016

#grbn\_org  
#grbn100days



THE  
**POWER**  
AND THE  
*Passion*

Customer Love  
Why People Matter in  
Modern Customer Engagement

Peter Harris  
President APRC  
FAMORS

APRC / JIRA ANNUAL CONFERENCE TOKYO 2016

What you need  
to know before  
conducting  
research in  
Thailand



APRC Conference Tokyo November 14<sup>th</sup> 15<sup>th</sup> 2016



DOES HORSE  
NEED TO SURVEY  
IN MONGOLIA?

About the Mongolia

Davaasuren Chuluunbat, President of the MMRA

# 国際委員会

-2016年度事業報告-



コミュニケーション  
サポート

Photo

## 若手育成

若手フォーラムの継続  
メーリングリスト500を  
目指す



# 国際委員会

-2016年度事業報告-

## 若手フォーラム



# 目標リスト500 実績630



## 第26回 若手フォーラム 6/26

### IoTビジネスの到来

Welcome to the  
World of **IoT**

IoT Innovation Center



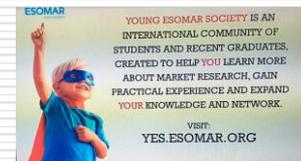
IoTイノベーションセンター所長  
兼エグゼクティブコンサルタント  
八子 知礼

## 第27回 若手フォーラム 7/27

### スバルアイサイト開発のインサイト



### 第28回 若手フォーラム 10/15



### カンファレンスでの学生プログラム

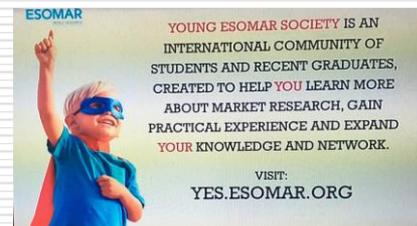
Photo

Photo

Photo

10/17, 11/2若手フォーラムワークショップ＝  
リサーチャーのペルソナ作り

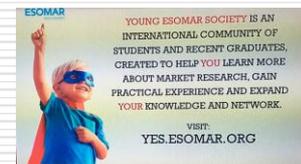
### 学生プログラム



Photo

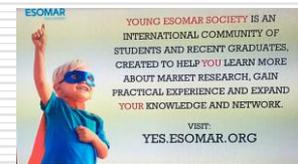
## 第29回 若手フォーラム 12/16

### 学生と国際委員会のジョイント忘年会



Photo

### 第30回 若手フォーラム 2/9



## 学生・若手とGMOリサーチ海外スタッフとの交流

Photo

# 2017年度事業計画

### グローバルネットワークの強化



ASIA  
PACIFIC  
RESEARCH  
COMMITTEE



**ESOMAR**  
WORLD RESEARCH



**GLOBAL RESEARCH  
BUSINESS NETWORK**  
APRC • EFAMRO • ARIA



ASIA  
PACIFIC  
RESEARCH  
COMMITTEE



MONGOLIAN  
MARKETING  
RESEARCH  
ASSOCIATION

WELCOME TO

# 2017 APRC

CONFERENCE IN ULAANBAATAR, MONGOLIA



## 各委員会との連携による JMRAのグローバル化に貢献



### 次世代のグローバル人材の確保を目指



若手フォーラムリスト目標 800

学生リスト目標 200

ご清聴ありがとうございます。  
皆様のご協力をよろしくお願い  
申し上げます。

---

JMRA事業計画プレゼンテーション

広報・交流委員会

# インターネット調査品質小委員会

◆ 近年のネットリサーチの回収率の低下や調査品質を不安視する声を受け、2016年8月に新設

◆ 2016年度の活動内容

1. ネットリサーチ会社の課題整理
2. スマートフォンに対応した各社の取り組みと検証調査の共有
3. アクセスパネルの実態把握
4. 「マーケティング・リサーチャー」誌での情報発信

## 1. ネットリサーチ会社の課題整理

- 全体的な回収率の低下
- 若年層の定着率の低下
- 中長期的なアクセスパネルの危機

## 2. スマートフォンに対応した各社の取り組みと検証調査の共有

## 3. アクセスパネルの実態把握

- 性別年代別登録デバイス／回答デバイス
- 性別年代別アクティブ率
- 標準的な謝礼金額

## 4. 「マーケティング・リサーチャー」誌での情報発信

### 132号「ネットリサーチの現状と課題」



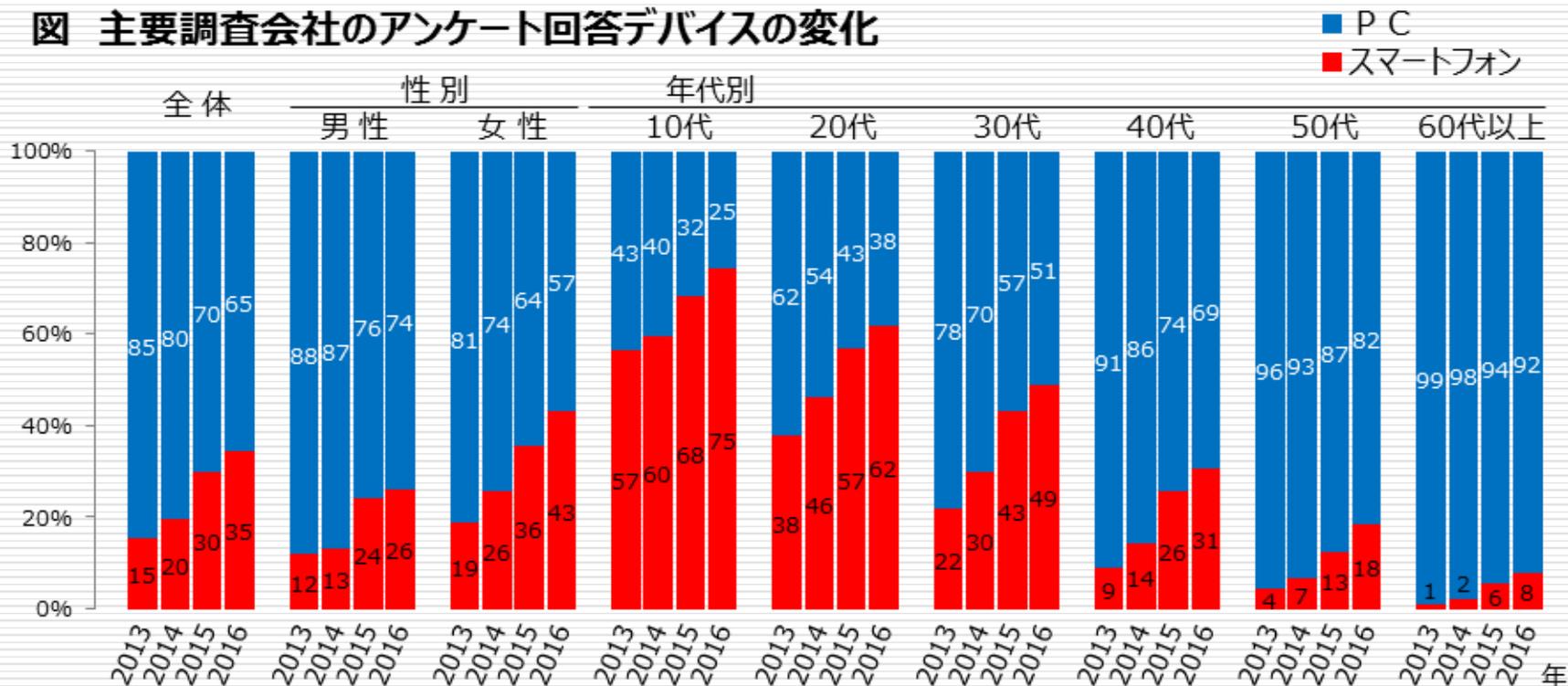
- モニターへの登録デバイスの変化
- アンケートの回答デバイスの変化
- アクティブモニター率の推移

PCからスマートフォンへと移行と  
ネットリサーチの存続に関わる問題提起

# インターネット調査品質小委員会 -2016年度事業報告-

## 132号「ネットリサーチの現状と課題」

図 主要調査会社のアンケート回答デバイスの変化



※ 1 主要調査会社の各年10月の回答デバイス構成比の単純平均

※ 2 デバイスの分類区分の定義は各社規定による

J M R A インターネット調査品質小委員会調べ

# 1. ネットリサーチの環境改善のための啓蒙活動①

2016年度に引き続き  
「マーケティング・リサーチャー」誌  
での情報提供

Marketing  
Researcher

**133号**

「スマートフォン回答者に配慮した  
ネットリサーチになっているのか」(予定)

## 1. ネットリサーチの環境改善のための啓蒙活動②

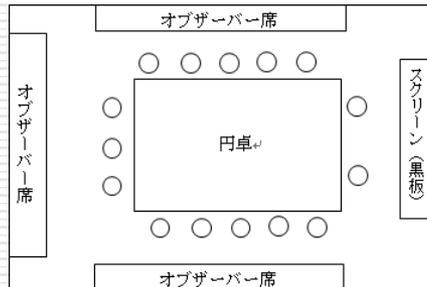


日本行動計量学会  
第45回大会

The 45th annual meeting of the Behaviormetric  
Society, University of Shizuoka

2017.8.29-9.1

### 日本行動計量学会第45回大会 ラウンドテーブルでの問題提起



### ネットリサーチ業界の現状報告と 研究者・有識者との課題解決に 向けたディスカッション

## 2. JMRAとしてのネットリサーチの品質ガイドラインの策定

- JMRAでは2007年以降、ネットリサーチの推奨となる目安を示していない(15分以内推奨)
- モバイル時代にも持続可能なネットリサーチ環境を維持していくための指針を作成
- JMRAアニュアル・カンファレンスでの発表を検討

インターネット調査の  
品質向上に関する研究  
(JMRAインターネット調査に  
関する研究委員会,2007.10)

インターネット調査の品質向上に関する研究  
— パネル、データ、テクノロジー 3つの視点から —

2007年10月  
インターネット調査に関する研究委員会

- 1 -

---

JMRA事業計画プレゼンテーション

広報・交流委員会

# CLT対策小委員会

◆ 本委員会は、従来旧法務委員会にて都度案件を取り上げ対応していたCLTに関する諸問題を迅速に解決すべく本年度より関係各社が集い新たに設置され、広報・交流委員会に属し活動を始めました。

下記に本年度の委員会の活動を記します。

### ◆ 渋谷地区における活動

従来、道玄坂に適用されていた「道路使用許可証」なしでの活動が渋谷署管轄全域で適用することとなった。

### ◆ 渋谷地区における活動

また、「区役所危機管理対策」課による「客引き迷惑条例抵触」について、区役所サイドと複数回の検討を行い、自主ルールを提示し認められた。

道玄坂エリアでは「貸会場」オーナーとの活動ルールの確認と情報交換を行った。

渋谷センター街エリアでは、友好的な関係を構築するためパトロール隊とのコンタクトをとっている。

センター街において街頭リクルーターへの「ユニフォーム」着用を検討し、サンプルを作成。テスト着用に向けて準備している。

### ◆ 新宿エリアでの活動

110番通報を行う特定クレーマーとの話し合い解決のため  
抵触を試みたが未だにコンタクト取れていない。

新宿警察の対応変化や特に新宿西口の活動活発化に  
伴い正会員者での自主ルールを検討・決定した。

また、「貸会場」業者に対する会場貸し出しルールを設定  
していただくことを依頼することとした。

### ◆ 街頭リクルーターの教育

年に一度「街頭リクルーター」への情報共有、教育を実  
施することを決めた。

◆ 2017年度は、リクルーターの質向上を目指し業界としての統一基準に沿った活動を徹底するように研修会の実施を行う。

また、各所轄・関係部署とコンタクトを取り円滑に我々の活動ができるよう、また道路使用許可証不必要に向けての訪問説明を行っていく。

渋谷センター街での「ユニフォーム」着用テスト結果を検討し、全エリアへの着用活動を検討していく。

- ◆リクルーターの教育・研修の実施
- ◆渋谷センター街「テストユニフォーム」の検討・全域への適用、申請のルール化
- ◆新宿西口のルール化(貸会場業者含む)徹底と、特定クレーマーの排除
- ◆渋谷管轄以外での「道路使用許可証」廃止に向けてのコンタクト
- ◆協会として、街頭リクルートの規定整備を行い正会員への告知及び徹底を図る

---

JMRA事業計画プレゼンテーション

# 西日本コラボレーション研究会

# 西日本コラボレーション研究会 – 設立の背景と目的 –

- ◆ 設立の背景 : 敵は業界外にあり
- ◆ 活動目的 : 会員企業と業界の発展に寄与

各社間の  
新たな連携・協業の  
調整・実践

隔離され気味な  
各社の若手リサーチャーの  
交流・成長機会の提供

エンドクライアント・  
社会へのアピール

**1社、1支社ではできなくとも、共同体であればできる**

# 西日本コラボレーション研究会 – 活動報告 –

---

1. 設立記念イベント
2. インナー研修
3. 東京セミナー誘致
4. アライアンス推進

◆ 定例会 (9月/11月/1月/2月 4回)

◆ メルマガ発行 (11月/12月/1月/2月/3月 5回)

活動報告

設立経緯/活動内容の説明



西日本の  
リサーチャーが  
集う

2016年9月13日  
21社 77名

懇親会



ゲストの講演

ネスレ日本株式会社  
マーケティング情報部  
部長 松崎 收亨さま  
『市場調査不要論に  
いかに対応していくか』



株式会社電通 関西支社  
プロモーション・デザイン局  
次長 山川 茂孝さま  
『デジタルマーケティングが  
リサーチ業界に与えるインパクト』



活動報告

独自コンテンツで…

### 【第1回】

2016年12月13日

10社 24名

「マーケティングのフレームとリサーチ」

基礎研修



若手が  
学ぶ

### 【第2回】

2017年2月21日

8社 17名

「商品の企画開発テーマでの  
マーケティングリサーチ」

グループディスカッション



終了後に 若手飲み会

活動報告

研修分科会のご協力を頂き…

2017年2月10日

**10社 20名**

(大阪では無料開催)

研鑽機会  
創出のための  
トライアル

JMRAにて開催された  
「リサーチャーのための伝わるデザイン」セミナー  
WEB中継



グループワーク



活動報告

実業務で  
コラボレーション

アライアンス・シート

<委託者側>

No.	委託先	委託業務				委託期間				委託料	備考
		業務内容	業務種別	業務形態	業務種別	開始日	終了日	契約形態			
1	株式会社...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	

<委託先側>

No.	委託先	委託業務				委託期間				委託料	備考
		業務内容	業務種別	業務形態	業務種別	開始日	終了日	契約形態			
1	株式会社...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	

18社

capabilityプレゼン



# 西日本コラボレーション研究会 – 活動計画 –

---

1. 年次西日本コラボレーション大会
  2. インナー研修
  3. 東京セミナー誘致
  4. アライアンス推進
- ◆ 定例会 (2カ月に1回)
  - ◆ メルマガ発行 (毎月)

活動計画

2017年 concept

### Collaboration & Communication

会員社間（若手同士/若手とベテラン）、  
クライアントとのコミュニケーション  
そこから生まれるコラボレーション

50名の参加を目指す  
10月開催予定

2017年 concept

知識のインプット、課題のシェア、業務に活かせるヒント

若手や中堅が「学びたいこと」が学べる

お題出しからの勉強会、ケーススタディなど  
3回開催予定

活動計画

2017年 concept

**Knowledge Armed (知見武装)**

～どこでも戦えるリサーチャーへ～

トライアルの経験を踏まえ、東京の運営体制、  
カメラ/マイク位置等の改善を行ったうえで、「有料」で開催

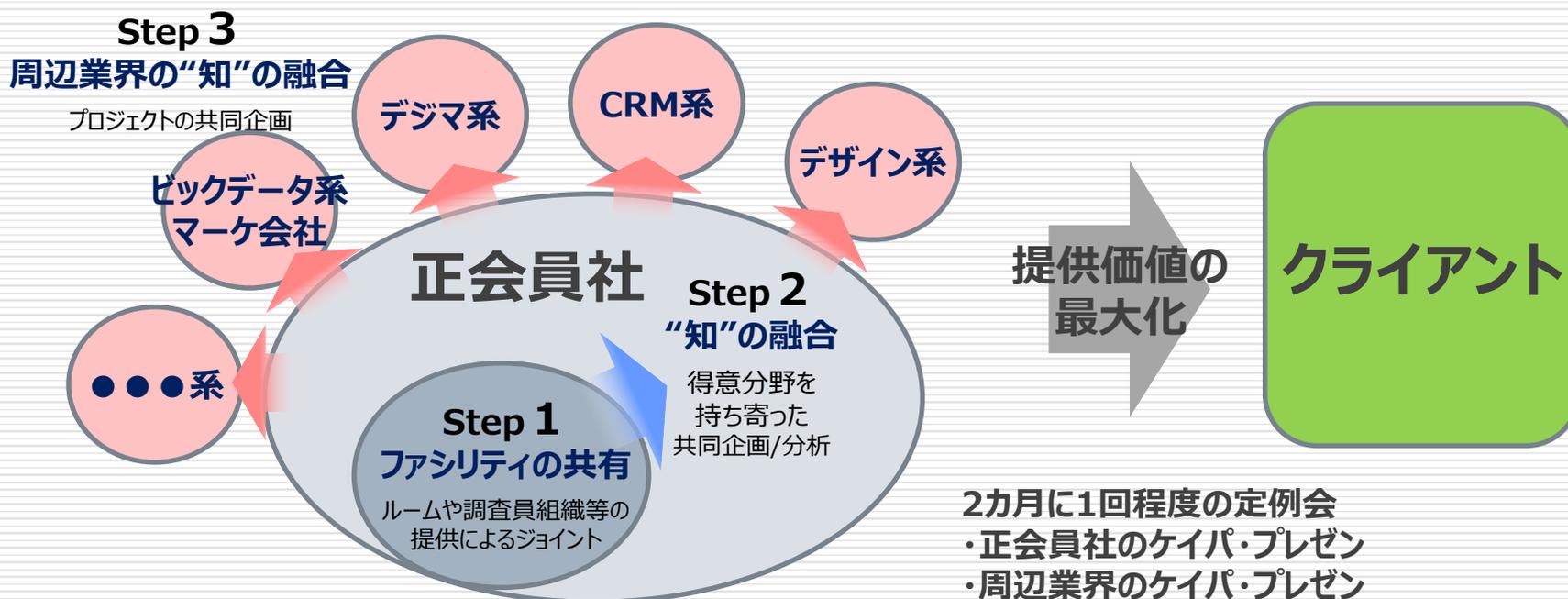
**年2回 (9月・2月頃)**

**各回 20名の参加を目指す**

2017年 concept

Collaboration with .....

～更なる“協業”推進 & 異業種企業との“協業”模索～



---

JMRA事業計画プレゼンテーション

# 人材マネジメント研究会

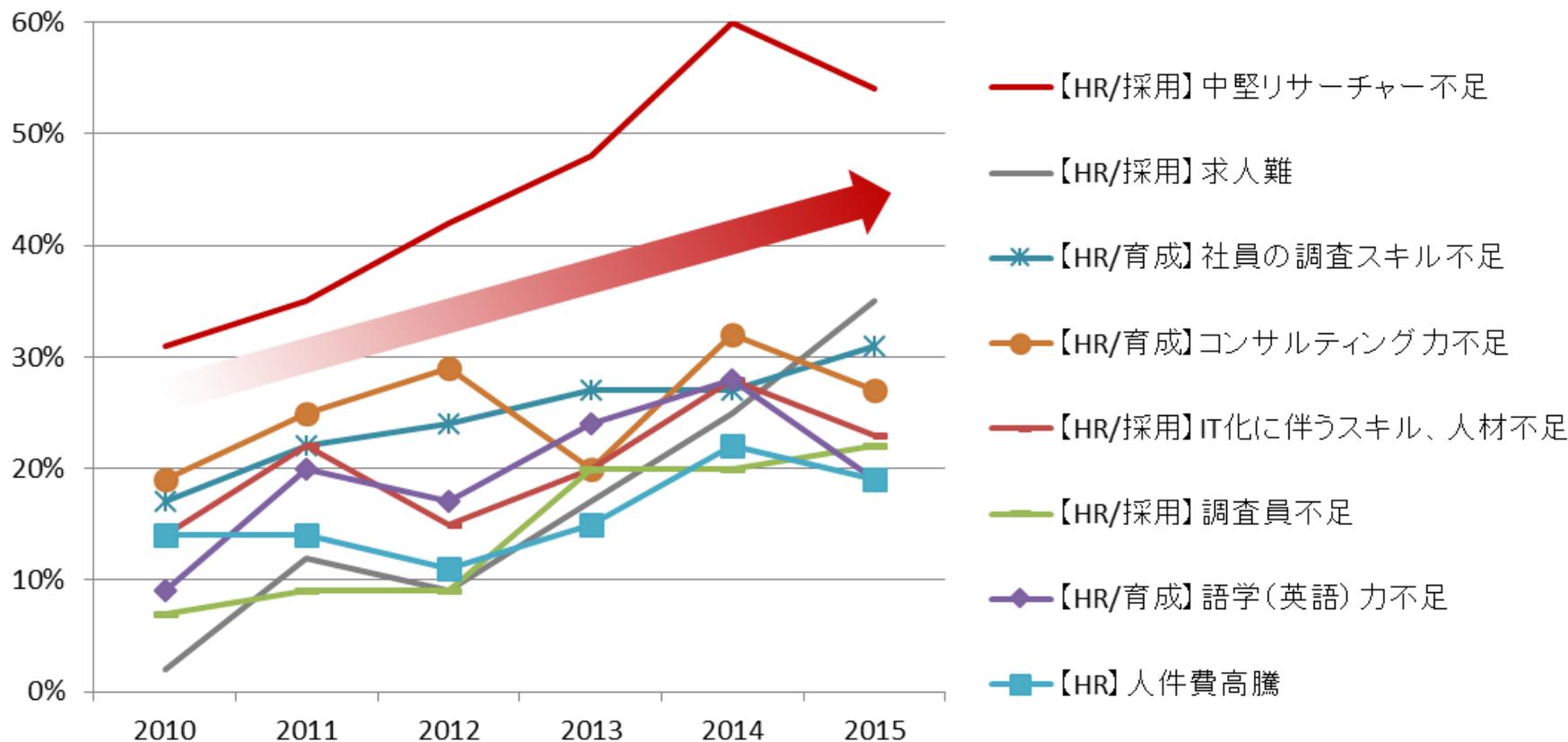
人材マネジメント研究会

# 事業方針

---

# Background

## 調査業界において人事の重要性は依然として高い

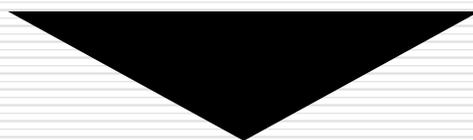


※JMRA 経営実態調査より (2015 : n=104)

# 研究会のミッション

---

人事成果を高めることで  
業界の業績向上に貢献する



- ✓各社の人事ロス・コストの制御
- ✓業界ブランドを高める  
(採用市場活性化/労務改善)

人材マネジメント研究会

# 2016年度 事業報告

---

# 活動概要

---

- **頻度** : 月次開催 (15:00~17:00)
- **参加社** : 15社 (委員数22名)
- **議題**

毎月1チームがローテーションで自由に2時間を使う

- 例1) 講義 (講師は内部・外部問わず)
- 例2) 特定テーマでの事例共有 + 議論
- 例3) 時事ネタ (法改正など) に対して、  
人事がすべきこと/知っておくべきこと
- 例4) マネジメント研修 ワークショップ 等

# 【10月】人事取組み紹介・・・楽天リサーチ

- 楽天におけるリーダーシップ構造と育成方法
- 楽天のダイバーシティに関する取組み



# 【12月】講演会

---

- ◆ 病気と付き合いながら働く企業にするために  
～がんと就労、高齢者雇用の観点から～
- ◆ 講師：  
株式会社OHコンシェルジュ  
代表取締役 東川 麻子氏



産業医 兼 労働衛生コンサルタント  
東川麻子先生

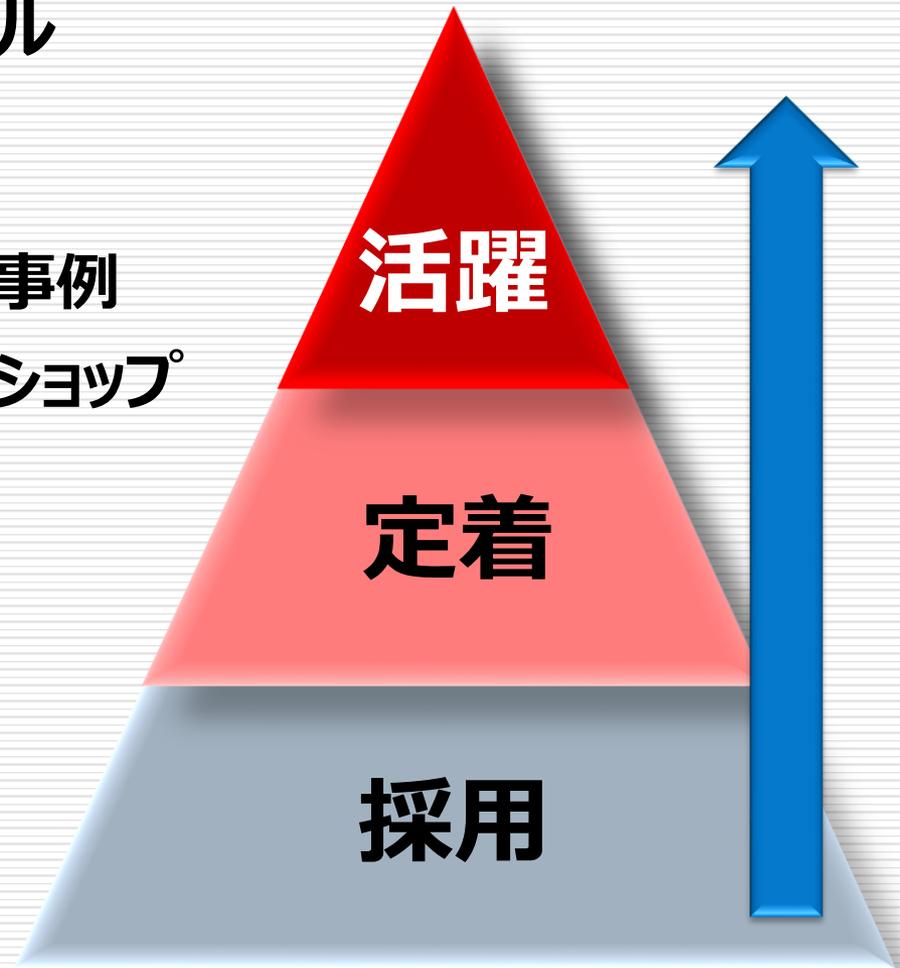
# 【1月】ワークショップ

---

◆ ファシリテート：マクロミル

◆ テーマ：定着・活躍

- マクロミル社での取組事例
- 各グループでのワークショップ
- 各グループの方針

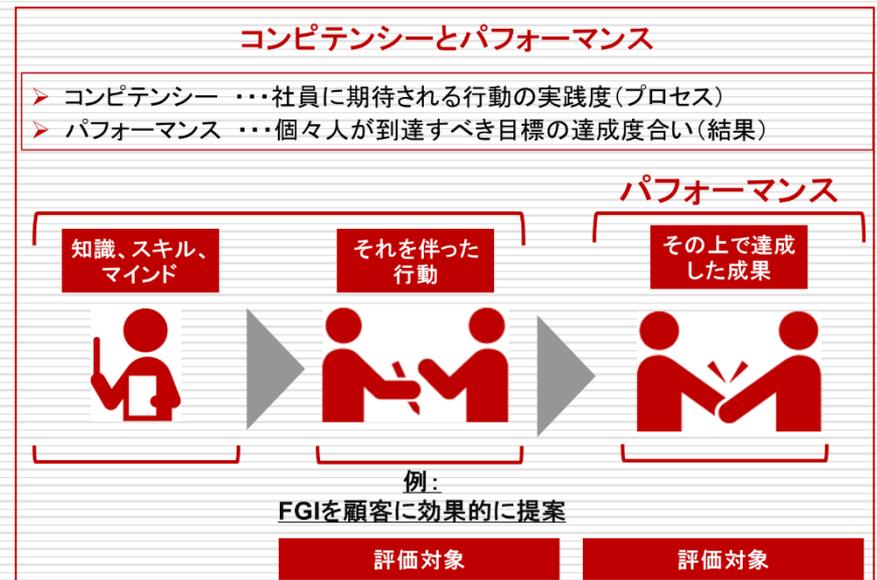


# 【2月】ワークショップ

## ◆ ファシリテート：楽天リサーチ

## ◆ テーマ：定着～人事評価

- 楽天リサーチ社での制度事例
- 各グループでのワークショップ
- 各グループの方針



# 【3月】人事取組み共有会

- ◆ ファシリテート：インテージ
- ◆ テーマ：ストレスチェック振返りと今後
  - 各社での事例共有
  - 課題の抽出と対策議論

事業者ならびに産業保健スタッフの皆様へ

2015年12月から  
ストレス  
チェックの  
実施が  
義務になります。

従業員のごころの負担が  
積み重なる前に

厚生労働省  
Ministry of Health Labour and Welfare

詳しくはコチラへ



人材マネジメント研究会

# 2017年度 事業計画

---

# Background

---

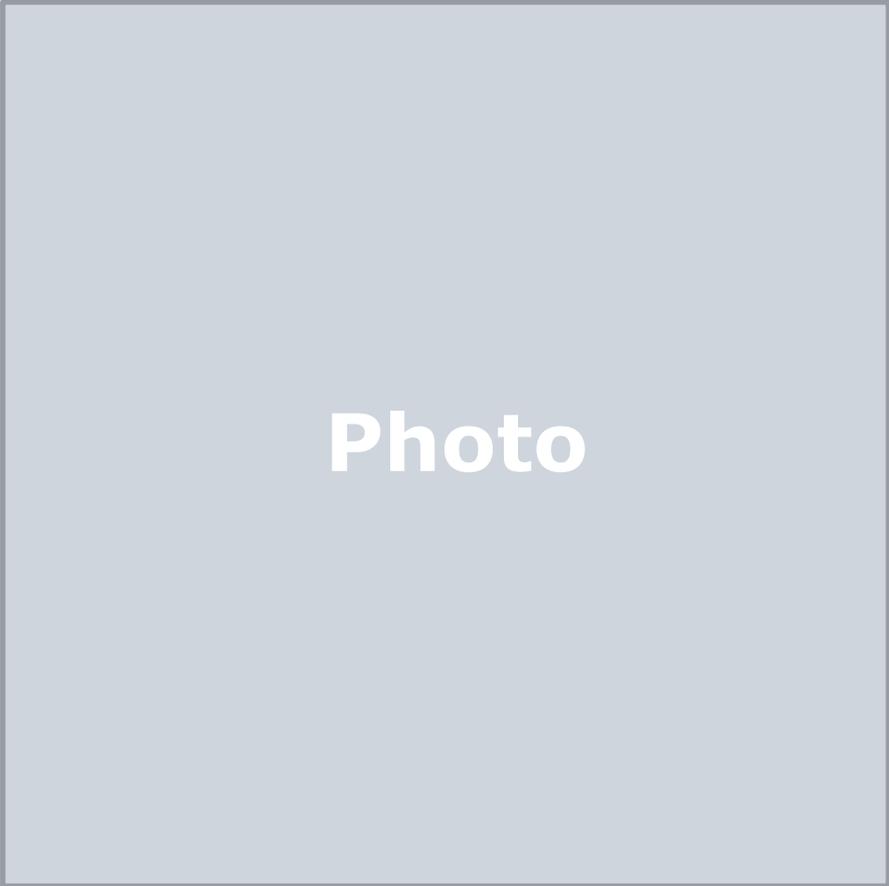
## 一億総活躍国民会議

平成28年3月25日、安倍総理は、総理大臣官邸で第6回一億総活躍国民会議を開催しました。

会議では、「長時間労働是正」、「女性の就業促進」及び「子供の教育問題」について議論が行われました。

総理は、本日の議論を踏まえ、次のように述べました。

**第一に、長時間労働の是正**であります。長時間労働は、仕事と子育てなどの家庭生活の両立を困難にし、少子化の原因や女性の活躍を阻む原因となっています。

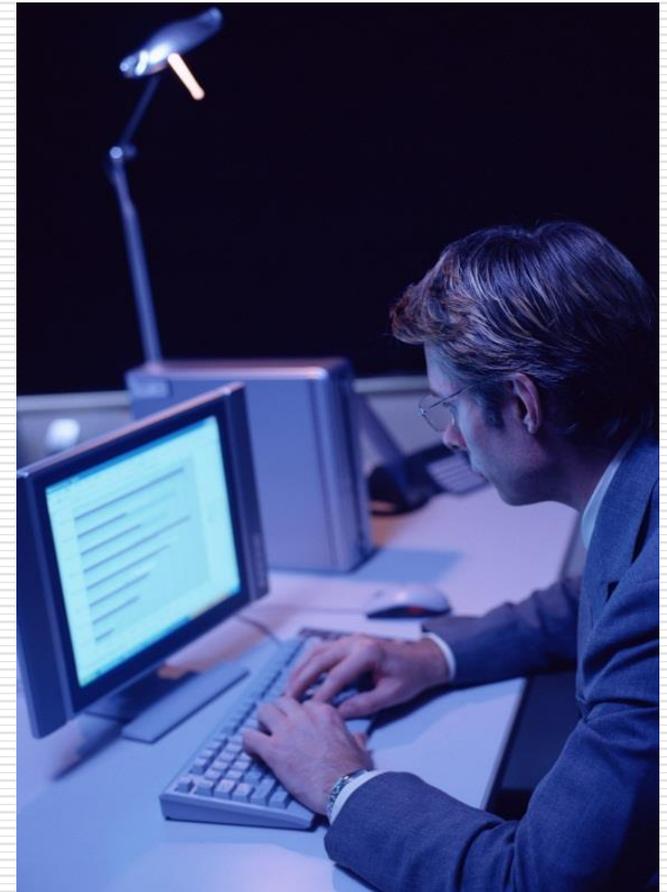


Photo

# Background

---

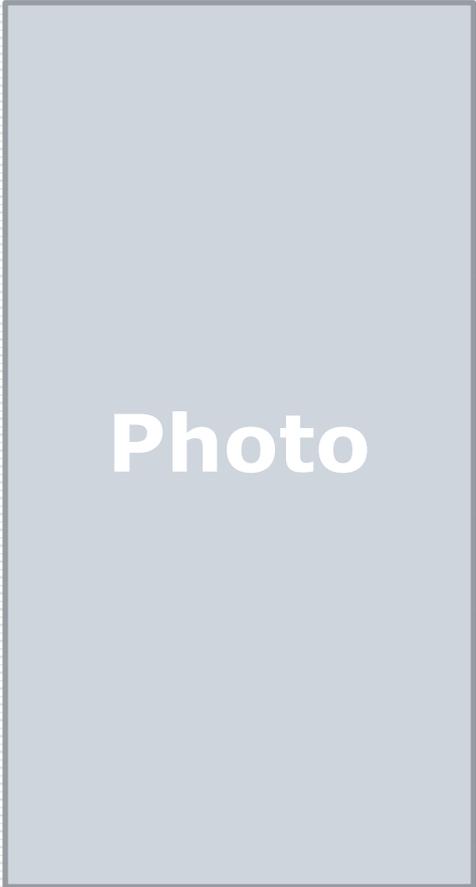
- 2016/3  
第6回一億総活躍国民会議を開催
- 2016/9  
働き方改革実現会議開始（首相）
- 2016/10  
大手広告会社へ労基署が立ち入り
- 2016/11  
労働基準監督官が増員へ
- 2017/2  
プレミアムフライデー開始
- 2017/3  
働き方改革実現会議にて、長時間労働の是正を含む実行計画をまとめ



# Background

---

- 政府は28日、働き方改革実現会議を首相官邸で開き、正社員による長時間労働見直しなど実行計画をまとめた。政府は今年の国会の手続きを経て、**2019年度からの実現をめざす。**
- 残業を「原則月45時間、年間で360時間」とし、労使で協定を結べば年間720時間まで認めるとした。特に忙しい月は特例として100時間未満の残業を容認する。経団連は働き手の自由度が狭まるとして上限規制に慎重だったが、**首相の裁定で上限設定が決まった。**



Photo

# Background

---

- そもそも、マーケティングリサーチ業界はビジネス自体に面白みがあるものの、労働集約型のビジネスモデルが主流
- 繁閑差があり、残業問題は多くの会社の人事課題
- 人材が定着せず、業績に影響している傾向がある



- 業界全体で働き方改革を推進
  - ✓ 参加各社の残業時間削減をKPIとして取り組む
  - ✓ 取り組みをリリースしてリサーチ業界のブランドを高める
  - ✓ 優秀な人材を業界に集め、定着させ（辞めない）、人材・業績が成長し続ける企業群を作る

# 研究会のミッション

---

## ◆ 背景：

- 業界全体での取り組みを要する時流
- 人事部の動きではなく、業界/経営の問題

## ◆ 取組み：

- ① 研究会にて業界取組み方針の骨子を作成
- ② 理事会に上申
- ③ JMRA会員各社での浸透
- ④ 顧客サイドへの啓蒙

# 研究会のミッション

---

## ◆ 今まで

- 各社の人事の取組みを把握できる研究会

## ◆ 今後

- 業界の働き方改革
  - 各社で決議させ
  - 各社で浸透、残業を減らす努力をして
  - 顧客を啓蒙する努力を会社単位で推進する

# 名称変更

---

人材マネジメント研究会

働き方改革委員会

---

JMRA事業計画プレゼンテーション

# 公的統計基盤整備委員会

## 活動の**目的**

官民相互の理解と協力の下、公的統計調査業務における「**民間事業者の活用**」が円滑に推進されることを目指す

- ① 公的統計の民間活用における府省等の要求に対して民間の実態を明らかにし、調査会社とその従業員の能力向上に資する活動を行う
- ② 公的統計の民間活用における民間の要求を明らかにし、府省等へ積極的に発信する

## 委員会の体制

### 全体会議

- ・講演会開催
- ・報告書作成
- ・関連団体の  
動向共有

### 幹事会

- ・表敬訪問
- ・委員会傍聴
- ・意見交換会  
など

### 小委員会

- ①市場動向分析  
把握
- ②ガイドライン推進  
発信
- ③資格制度推進  
整備

ここからは各小委員会

①市場動向分析

②ガイドライン推進

③資格制度推進

の取り組みについてご報告いたします

## 市場動向分析小委員会

### 活動内容

- ① 会員社調査の実施
- ② 民間調査機関を活用した統計調査の一覧作成

公的統計調査市場における諸情報を収集・分析し、市場動向の現状や方向性の把握に資する有用な情報を内外に提供することを活動の目的としています。

## 市場動向分析小委員会

### 活動内容

#### ① **会員社調査**の実施

民間事業者の実態を明らかにし、情報発信  
するための重要な調査(本年度で9回目)

**回答いただいた会員社の皆様、  
ご協力誠にありがとうございます！**

## 市場動向分析小委員会

引き続き、

①②に加えて

③ **府省担当者ヒアリング**の企画実施

で、**府省からの要望把握の強化**に努めます

# ガイドライン推進小委員会

## 活動内容

- ① 統計調査の仕様書を入手・分析
- ② 仕様書の改善に向けた提言

仕様書が民間委託ガイドラインに沿っているか検証するため

- ・「統計調査における民間事業者の活用に係るガイドライン(総務省)」
  - ・「実施要項作成時における競争性改善上のチェックポイント(総務省)」
- 等に沿って仕様書を分析。仕様書改善に向けた提言を行っています。

## ガイドライン推進小委員会

- ① 統計調査の**仕様書**を入手・分析

**府省と民間を結びつける  
最も重要な書類!!**

**応札者の視点で仕様書を検証**

## ガイドライン推進小委員会

### ② 仕様書の改善に向けた提言

#### 仕様書改善

入札検討に必要な情報が的確に記載

競争環境改善

#### 競争性改善

入札希望者の増加によって、  
一者応札の改善  
委託先の質向上  
統計の品質向上

政府は

**負担減**

民間は

**機会増**

## ガイドライン推進小委員会

引き続き、

- ① 統計調査の仕様書を入手・分析
- ② 仕様書の改善に向けた提言

に**実直**に取り組み、

公的統計の**民間委託拡大**に貢献します

## 資格制度推進小委員会

### 活動内容

#### 「統計調査士」「専門統計調査士」資格について

- ① 内容および資格制度設計の検討への参画
- ② 受験／合格実態把握・分析
- ③ 受験対策講座の企画・開催

JMRA会員社における統計検定資格の普及推進のため、  
理解促進と課題収集、多方面への周知広報を行い、  
会員社にとって役立つ資格制度へ改善提言を行うことを目的としています。

## 資格制度推進小委員会

### 「統計調査士」「専門統計調査士」

統計学・調査実務全般にわたる体系的知識を身につけることで、個人のスキルアップがはかれます。



結果として、

MR業界全体のプレゼンス向上に役立つコンテンツとして、資格取得を推進しています。

## 資格制度推進小委員会

### ① 内容および資格制度設計の 検討への参画

2011年の発足以来  
統計検定センターへ協力する形で活動を継続

2016年は主に「**専門統計調査士**」  
について検討

## 資格制度推進小委員会

### ② 受験／合格実態把握・分析

2016年試験では・・・

「統計調査士」「専門統計調査士」ともに

JMRA会員社での受験者数は増減なし

ただし**全体の受験者数は増加**に転じた

## 資格制度推進小委員会

### ③ 受験対策講座の企画・開催

- ◆ 3期目の開催
- ◆ 9月～10月に5講座を実施、のべ58人が受講  
講義内容、テキストとも好評を博す
- ◆ 2016年はJMRA会員社以外からも受講が散見

②③をふまえると・・・



**MR業界外からも注目の資格に！**

## 資格制度推進小委員会

継続して①②③についてより深く取り組み、

JMRA会員社における

**統計検定資格取得をバックアップし、**

かつ、

より**取得メリット**のある資格となるよう

努めてまいります

## 資格制度推進小委員会

2017年の



は・・・

- ◆ 9月～10月に5講座を開催！
- ◆ 「②統計学応用講座」をボリュームアップ！  
0.5日×3回構成で参加しやすくなりました！

ご自身のスキルアップに！ 部下の育成に！

ぜひお役立てください！！

## 今年度も

- ① **会員社調査**へのご協力
- ② **専門統計調査士受験対策講座**  
のご活用

を是非ともよろしくお願いします！

---

JMRA事業計画プレゼンテーション

# リサーチアカデミー委員会

(出版分科会・研修分科会)

2016年度 事業報告プレゼンテーション

# リサーチアカデミー委員会

---

2017. 5. 26



# 委員会のミッション

# リサーチアカデミー委員会は・・・

- ➔ リサーチチャーの教育と育成、リサーチチャーとリサーチユーザーの関係強化を図ることを目的として活動する。
- ➔ 出版分科会と研修分科会の2分科会制から構成し、以下の活動を行う
  - ①機関誌出版とその連動したテーマでのセミナー設定、新調査技術研究の情報発信。
  - ②リサーチチャーの成長に貢献する教育プログラムの開発と運営

# 2016年度事業報告

# リサーチアカデミー委員会としての活動

## 合同委員会の開催（2016年7月）

- 旧研修委員会、旧出版委員会、旧調査技術委員会のメンバーが一同に会し、リサーチャーとしての課題意識、リサーチアカデミー委員会としてやりたいことなどをワークショップ形式で共有



# コラボセミナー「伝わるデザイン」の実施 (2017年2月)

- 「マーケティング・リサーチャー」誌130号に掲載した「リサーチレポートのビジュアル化」を元に、執筆者である高橋氏のセミナーを実施
- テレビ会議システムを利用した大阪会場を含めて50名が参加
- リサーチャー誌が取り上げた話題や有識者を研修に展開する成功事例が作れた



# 研修分科会の活動

区分	No.	研修名	日時	講師	参加
総合	1	2016年度新人リサーチャー合宿セミナー	2016/4/20~22		20名
	2	マーケティングとマーケティング・リサーチセミナー (総論編)	2016/10/20	楽天リサーチ(株) 三木 康夫氏	9名
	3	マーケティングとマーケティング・リサーチセミナー (各論編1)	2016/11/10,17	楽天リサーチ(株) 三木 康夫氏	10名
	4	マーケティングとマーケティング・リサーチセミナー (各論編2)	2016/12/6,13	楽天リサーチ(株) 三木 康夫氏	13名
統計関連	5	質的データのマイニングのための対応分析法講座	2016/11/30 ;12/7,14,20	統計数理研究所 大隅 昇氏	8名
定性調査 関連	6	定性調査の基礎講座	2016/6/8,15 ,22,29	肥田 安弥女氏 / 林 美和子氏	14名
	7	定性調査 実務に役立つ企画力を養う実践講座	2016/10/12, 19,26,27	肥田 安弥女氏 / 林 美和子氏	10名
	8	定性調査 分析力を養う実践講座	2017/1/11,18, 25	肥田 安弥女氏 / 中村 亜砂子氏	15名
	9	定性調査 インタビュー実践講座	2016/11/9,16, 21	林 美和子氏 / 赤塚 史恵氏	11名
トピックス	10	第47回JMRAトピックスセミナー 伝わるデザイン	2017/2/10	千葉大学 高橋 佑磨氏	42名
	11	第48回JMRAトピックスセミナー 消費者行動論	2017/3/6	一橋大学大学院 松井 剛氏	25名

<2016年度>

正会員 53社(94名)

賛助法人会員 27社(32名)

賛助個人会員 (4名)

一般 42社(47名)

合計 177名

<2015年度>

正会員 38社(71名)

賛助法人会員 28社(42名)

賛助個人会員 (3名)

一般 48社(56名)

合計 172名

- リサーチャーのコアスキル領域の講座を縮小し、顧客接点のための施策重視に
  - 集客に苦戦していた統計系講座群を休眠
  - 企画力、表現力、編集力、コミュニケーション力の施策にシフト
    - 『リサーチャーのためのデザイン』
    - 『消費者行動論』

# 出版分科会の活動

- 年間3号の「マーケティング・リサーチャー」発行

130号

特集テーマ ▶ 視覚化するコミュニケーション

～情報過多時代のメッセージ伝達～

- ビジュアルを活用したコミュニケーションの最前線では何が起こっているのか？
- リサーチのアウトプット・・・よりよい見せ方は？

巻頭インタビュー ▶ ジャパン インバウンドソリューションズ

中村 好明氏



# 131号

## 特集テーマ “新機軸市場”への挑戦者たち

- コモディティ化された市場ではなく、“より上質なものが求められるマーケット”におけるマーケティングの実態は？
- この市場におけるリサーチのあり方は？

## 巻頭インタビュー スターバックスコーヒー 武田 氏



# 132号

## 特集テーマ

## リサーチモニターをつかった調査の将来像

- インターネット調査の課題と持続可能性は？
- 生活者の声を聞くためのリサーチを今後どのように発展させていくべきなのか？

## 巻頭 インタビュー

## カシオ計算機 坂田 氏



## 「リサーチャー」誌・誌面充実への取り組み

### ➔ 他委員会との連携強化

- 132号ではインターネット調査品質小委員会からのネットモニターに関する問題提起を、特集のコンテンツとして発信。今後も情報発信の場として継続的に掲載の予定。

### ➔ 「インフォメーション欄」新設

- 協会のイベントや委員会活動の成果、会員や寄稿者個人の著書を紹介する欄を新設

# 2017年度事業計画

# リサーチアカデミー委員会としての 活動方針

本日発表された

「J M R A マーケティング・リサーチ産業ビジョン」

に基づき、

ビジョンに沿った人材育成と情報発信とを行っていく

イノベーションのエンジン

あらゆるデータの目利き

# 研修分科会としての活動計画

- **リサーチスキルとリサーチ活用スキルの開発**
  - 顧客の抱えている問題に適切にアプローチできる
  - 結果の活用
  - 編集する力
- **新しい方向性の講座への取り組み**
  - 『リサーチャーのための英語』
  - 『消費者行動論』
  - 『図と事例で理解する多変量解析』
- **時代性のあるテーマへの取り組み**
  - 『アメリカ大統領選挙検証』
  - 『三木康夫先生最終講義』

# 出版分科会としての活動計画

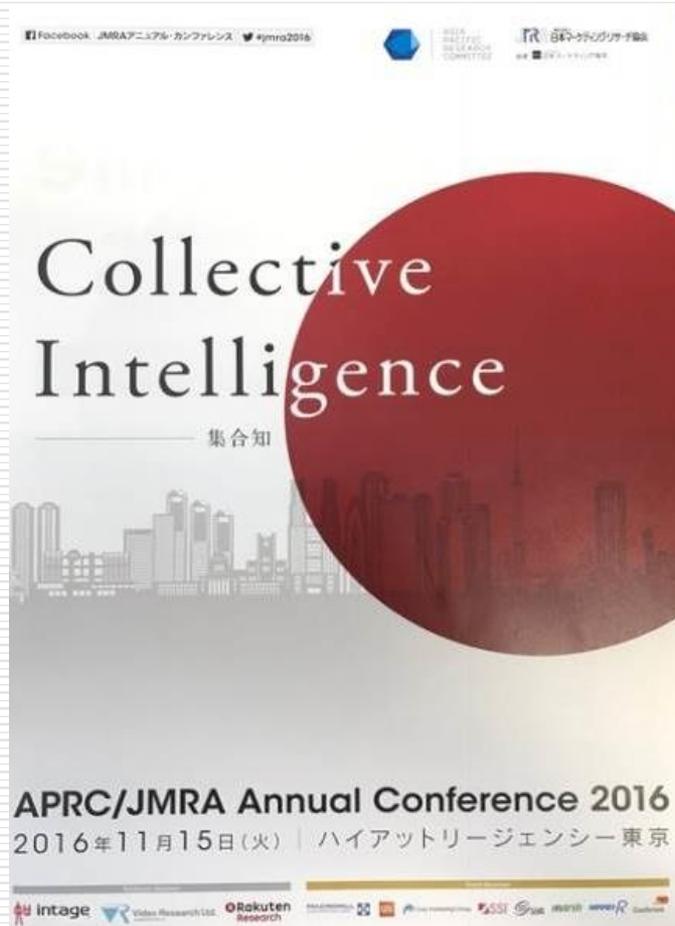
- 産業ビジョンの内容に沿った特集テーマの採用
- 研修に繋げることを意識した、記事テーマ、執筆陣の選定
- WEBの活用強化
  - 昨年度、積み残しになった「ちょっと教えて」欄のWEB化、発行後の協会ホームページでのアピール強化などを行う

---

JMRA事業計画プレゼンテーション

# カンファレンス委員会

## APRC/JMRA合同カンファレンス



日時：2016年11月15日（火）

場所：ハイアットリージェンシー東京

テーマ：Collective Intelligence  
＜集合知＞

講演：3会場にて実施  
（A会場、B会場、C会場）

# カンファレンス委員会

-2016年度事業報告-

## オープニングセレモニー



# カンファレンス委員会

-2016年度事業報告-

## 基調講演

舩田 淳氏  
LINE株式会社 取締役 CSMO



「スマホへの特化と、カルチャライズによる海外展開」

# カンファレンス委員会

-2016年度事業報告-

## APRC エクセレントペーパー発表



# カンファレンス委員会

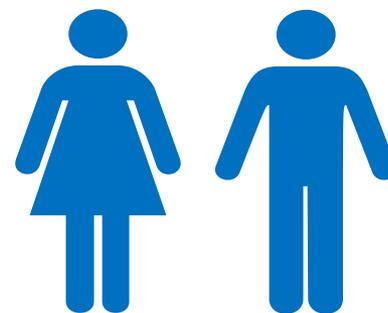
-2016年度事業報告-

## 収支と参加人数



+216万

計画値達成



728名

過去最高

## リサーチ業界を取り巻く環境



✓ ビックデータホルダの台頭



✓ AIの進化



✓ インターネット調査の普及

## 2017年 カンファレンスのテーマ

# Fusion & Creation

## コンテンツ

### ■ 基調講演、特別講演

時流を捉えた業界内外のコンテンツを企画

### ■ パネルディスカッション

リサーチ会社同士で課題や将来像を議論

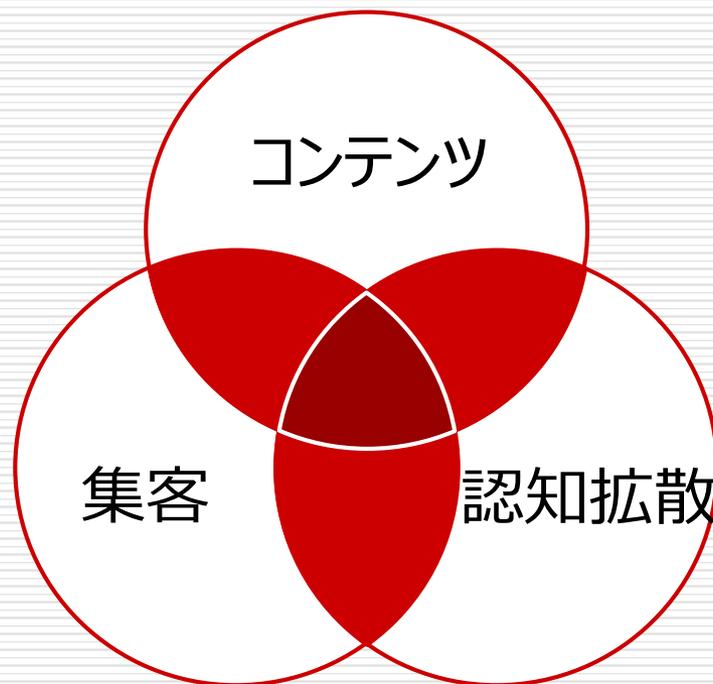
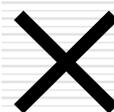
### ■ 広報・交流委員会

⇒ インターネット調査品質小委員会との連携を予定

# カンファレンス委員会

-2017年度事業計画-

## メディアパートナー



# カンファレンス委員会

-2017年度事業計画-

## 日程・場所

11月28日 (火)

ハイアットリージェンシー東京で開催



## スポンサー

### ■ ブーススポンサー

- ・プラチナ
- ・ゴールド
- ・シルバー
- ・ブロンズ

### ■ イベントスポンサー

- ・情報交流会
- ・オープニング
- ・ウェルカムディスプレイ
- ・学生コンテンツ
- ・バック、ノート
- ・ランチ





---

JMRA事業計画プレゼンテーション

# JMRA事務局

# 2017年度計画 JMRA 事務局



# ***Sexy & Cool***

---

変わるテクノロジー

変わらぬプリンシプル

# ***Drive & Support***

---

1. 協会広報活動の推進
2. 協会サービスの充実
3. 他団体との関係強化による交流の促進
4. 調査対象者、  
リサーチユーザーに向けた取り組み
5. 協会運営関連業務の強化
6. プライバシーマーク審査会の運営

リサーチチャーとともに

**JMRA**

リサーチの未来のために

---

JMRA事業計画プレゼンテーション

# コンプライアンス委員会

(綱領・海外タスクフォース／法務・国内タスクフォース)

## ◆ 委員会の再編

ESOMAR Code改訂および新技術の登場に伴うリサーチ綱領の見直しや、国内の個人情報保護法改訂など業界をとりまく環境の大きな動き



協会としてどのように会員社のリスクを回避していくか等、集中して討議を行うためのより柔軟で効果的な委員会運営を目的として2016年度より「綱領委員会」「法務委員会」が統合し、「コンプライアンス委員会」とした

## ◆ コンプライアンス委員会の構成

各タスク遂行のため、32名のメンバーを2分科会に分け、それぞれの課題ごとに集中審議を行い、全体ミーティングで課題を共有する

### ■ 綱領・海外タスクフォース

JMRAのMR綱領改訂およびESOMAR等の海外対応のためのタスクフォース

### ■ 法務・国内タスクフォース

保護法改正に伴う個人情報保護ガイドライン(青本)・法務ハンドブックの見直しおよび国内法務関連対応のためのタスクフォース

### ◆ 綱領・海外タスクフォース

#### ◇ESOMARミーティング参加とESOMAR Code改訂版へのFBと意見交換を行った

※ESOMAR Code改訂の背景

デジタル時代への対応:リサーチャーが扱うデータソースの多様化(ソーシャルメディア、各種ログデータ、IoT等)、データアナリティクス分野のプレーヤーの新規参入、等に対応した改訂。2016年12月リリース

#### ◇JMRA「マーケティング・リサーチ綱領」改訂版ドラフトの作成

- ESOMAR Code改訂版を参考にしつつ、日本の現状に即した独自の綱領を作成
- 個人情報の具体的な取り扱い方法はJMRA『個人情報保護ガイドライン』に準拠。綱領自体はリサーチャーの職業倫理に重点を置く
- マーケティング・リサーチ周辺の新規参入プレーヤーや調査への協力者にとってもわかりやすく実用的な表現に変更する

#### ◇入会審査 2社

## ◆ 綱領・海外タスクフォース

- ◇大きく変化する時代において、マーケティング・リサーチの社会的地位を損なわない為にマーケティング・リサーチ倫理の確立と業界プレゼンス向上を目的とした活動を行う。
- ◇JMRAマーケティング・リサーチ綱領改訂版を会員社およびリサーチユーザー企業に周知・広報するための方法を検討、実施する。Webサイトへの掲載、解説・配布資料の作成等を行う。
- ◇入会審査

## ◆ 法務・国内タスクフォース

◇個人情報保護法改正案へのパブリックコメントの提出

◇ISO/TC225国内委員会と協賛し、コンプライアンスセミナー  
「個人情報保護をめぐる国内外の最新動向」(11月)を実施

- 新保史生教授に「改正個人情報保護法体系、EUの一般データ規則解説」についてご講演いただく

◇JMRA個人情報保護ガイドライン(青本)の改訂準備作業を実施

- 各条項ごとに解説及び事例を見直し、改正法との関連を追記
- 海外クライアントからの要望対応のため英語版作成も検討

◇無料法律相談の開催

- 協会顧問弁護士により例年通り年12回(毎月第一木曜日)実施し、年間計18件の法律相談を実施

## ◆ 法務・国内タスクフォース

### ◇JMRA個人情報保護ガイドライン(青本)改訂版のリリース

- 改正個人情報保護法及び関連ガイドラインへの適合を考慮し、昨年度からの青本改訂作業を継続
- JIS Q15001改訂後は新JIS規格要求への適合の視点で、再度の修正を施し、年度内に新JIS準拠版をリリース予定

### ◇「法務ハンドブックⅢ(統合版)」の発行

- 現行の「法務ハンドブックⅢ」と「同増補版」の内容を精査、重複項目の統合、Q&Aの見直しを実施。「同統合版」として本年9月にデータ版で提供予定
- 改正個人情報保護法、新JISに準拠した「法務ハンドブックⅣ(全面改訂版)」は、個人情報保護ガイドラインの改訂後に作成予定

## ◆ 法務・国内タスクフォース

### ◇ 法務セミナーの開催

- 改正個人情報保護法の新たな規制事項への実務対応についてセミナーを実施予定

### ◇ 無料法律相談の開催

- 本年度も引き続き、協会顧問弁護士による「マーケティング・リサーチ事業に関する各種法律相談」を原則として毎月1回開催



---

JMRA事業計画プレゼンテーション

# ISO/TC225国内委員会 兼 マーケティング・リサーチ規格認証協議会



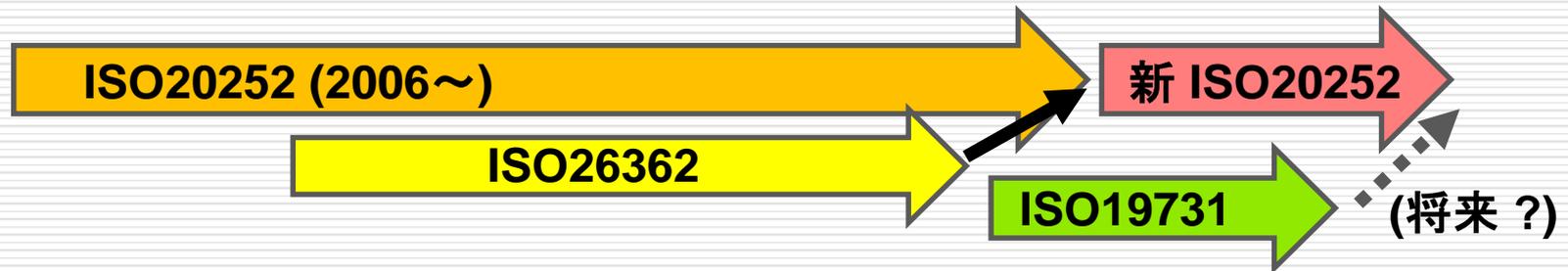
# あらためて、ISO20252 ファミリーとは？

## ◆ 市場調査業界に特化した品質管理・保証の仕組み

- ISO9001(品質マネジメントシステム)の市場調査業界版
- 市場・世論・社会調査のプロセス管理に特化した、国際的な品質管理基準(日本のJMRQSとほぼ同様の規格)  
⇒ わが国公的統計の「プロセス保証」も ISO20252に準拠

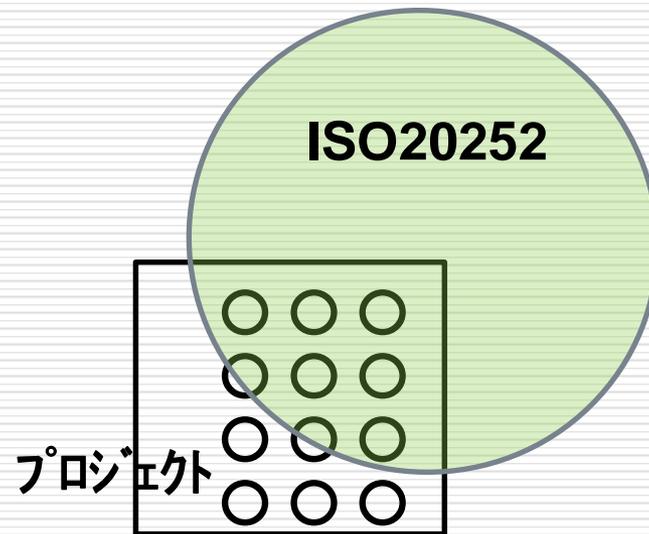
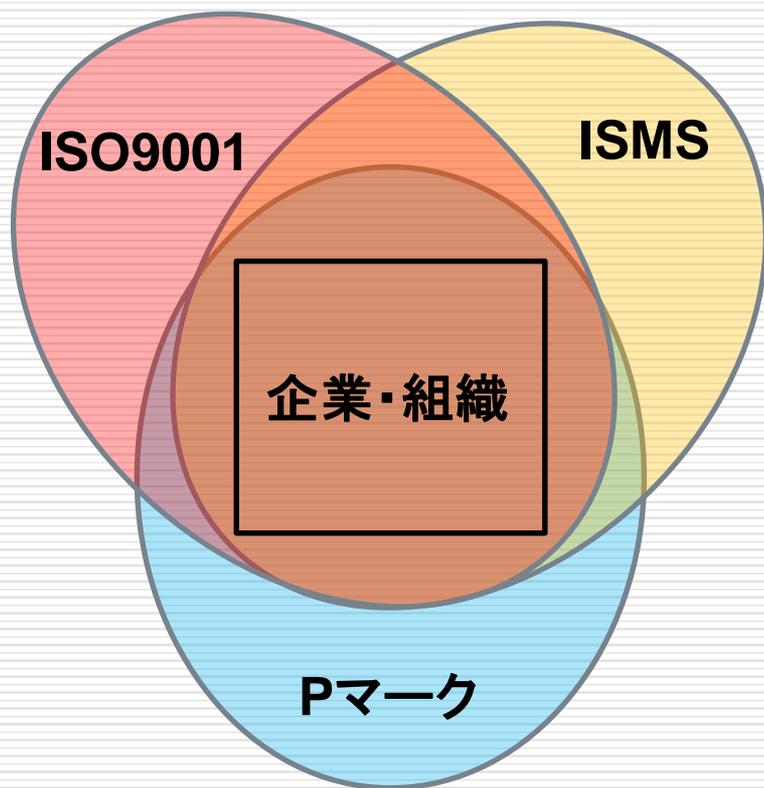
## ◆ 国際機関 ISO/TC225(225番目の技術委員会)が所管

- **ISO20252: 2012** Market, opinion and social research (改訂途上)
- **ISO26362: 2009** Access Panels (ISO20252に統合される予定)
- **ISO19731: 2017** Digital analytics and Web analyses (6月発行予定)





# ISO20252と、9001やPマークとの違いは？



- ・ ISO9001やPマークは「マネジメントシステム」であり、会社・組織全体にアミがかかる ⇒ **全業務が対象**

- ・ 一方、ISO20252は「製品・サービス」の**提供プロセス**を認証する仕組みであり、**適用「宣言」した業務だけが対象**となる ↓
- ・ そうしたサービスを生み出す力量を認証しているとも言える

# ISO/TC225国内委員会 兼

## マーケティング・リサーチ規格認証協議会

-2016年度事業報告-

### ◆ TC225総会/WG1 東京会議を開催(4/19~21 at.楽天様)

- ISO20252の改訂に向けた各国の意見を検討・集約  
(日本主催は11年ぶり) ⇒ 早期発行に向け、議論を加速

TC225東京会議参加者



- ◆ **ISO19731 (Web Analyses)、まもなく発行へ(6月予定)**
  - 国際的に、ビッグデータ分析領域への効果的な参入をねらう
  - 日本での認証スキーム構築に向け、会員社の要望ヒアリングへ
- ◆ **一方で、国内認証取得社は「8社」のまま**
  - 公的統計の入札資格要件化のためにも、早期に2ヶタを目指す  
⇔ 国の統計事業予算は平年約400億円、国勢調査年は約1,000億円
  - 引き続きセミナー等を通じ、情報提供 & 認証取得を働きかけ
- ◆ **認証取得拡大はクライアントのニーズ**
  - 官公庁の統計担当職員の減少は今後も続く(⇒ 民間開放も続く)
  - 外資系大手クライアントからの国際的な要請

**市場拡張の  
チャンス!**

#### ◆ 改訂後のISO20252（旧26362:アクセスパネルを含む）の構成

- 共通 & 必須の要求事項と選択可能な「付属文書（各論）」への再編
- 「総論 + 1つ以上の付属文書」遵守が第三者認証の条件に

#### 図 市場調査系ISO規格の将来像（2018年以降）



# (参考) ISO19731の構成と主な内容

## 序文

### 1. 適用範囲

### 2. 引用規格

### 3. 用語と定義 (42項目: ISO20252との重複あり)

### 4. 調査プロジェクト管理に関する要求事項 (ISO20252と同様)

### 5. 提案書の提出

### 6. プロジェクトの実施

※) 日本語版の準備がほぼできており、  
(一財)日本規格協会様より発行予定

## ◆ 本規格が対象とする領域は、「デジタルデータや記述等の分析」

- (具体的には) Webサイトの訪問者の行動を収集・測定・分析する、
- クッキーを用いて対象者のWeb上の行動を追跡・測定・分析する、
- ソーシャルメディア利用者のコメントを記録・測定・分析する、・・・等

## ◆ デジタルデータを扱う調査サービスの質を評価できる基準を提供

# (参考) ISO19731の構成と主な内容

序文

1. 適用範囲

2. 引用規格

3. 用語と定義

4. 調査

5. 評価

6. フロント

※) 日本語版の準備がほぼできており、  
(一財)日本規格協会様より発行予定

**ESOMAR綱領 / JMRA綱領  
の改訂にも連動!**

- ◆ **本規格が対象とする領域は、「デジタルデータや記述等の分析」**
  - (具体的には) Webサイトの訪問者の行動を収集・測定・分析する、
  - クッキーを用いて対象者のWeb上の行動を追跡・測定・分析する、
  - ソーシャルメディア利用者のコメントを記録・測定・分析する、・・・等
- ◆ **デジタルデータを扱う調査サービスの質を評価できる基準を提供**

## ◆ ISO20252改訂への参画、国内での認証普及促進

- 国際会議での日本の意見・要望の反映  
⇒ 次回アムステルダム会議(9月)でCD(委員会ドラフト)確定へ
- 改訂発行に備え、アクセスパネル(旧ISO26362)の認証方法検討
- ISO19731の英日対訳版作成、認証スキームに関する検討
- 国際的な個人情報保護規制強化(GDPR等)への対応と連携

## ◆ 公的統計委員会等と協力し、市場拡張を追求

- 公的統計参入機会拡大、入札時のISO加点ポイント化を目指す  
⇔ 公的統計分野における「プロセス保証」に関する啓蒙  
⇒ 民間開放も、面接調査から郵送・オンラインへのシフトが見込まれる
- 民間事業においてもクライアントニーズの掘り起こしを目指す

# (参考) 日本での認証区分の詳細

## ① マーケットリサーチ(MR)サービス

種類	認証区分の名称	認証区分の内容
A B C D	調査員訪問型 定量調査	1)訪問面接調査, 2)訪問留置調査, 3)小売店監査調査(ストア・オーディット調査), 4)ミステリーショップ <ul style="list-style-type: none"> <li>調査員が一般家庭・小売店・事業所・医療機関等を訪問し、行う調査</li> <li>1), 2)には調査員訪問型の継続パネル調査も含まれる。</li> </ul>
	調査員介在型 定量調査	1)CLT(CAPIを含む), 2) 来場者調査(来街者調査、来店者調査、出口調査を含む), 3)電話調査(CATI含む), 4)観察調査(交通量調査、来店客動線調査を含む) <ul style="list-style-type: none"> <li>調査員(電話オペレータ含む)が限定されたエリア内で管理者の監督の下で行う調査</li> </ul>
	調査員非介在型 定量調査	1)インターネット調査, 2)郵送調査, 3)装置設置型調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>データ収集時に調査員が介在せず、対象者が所有する情報通信機器、対象者(宅)・対象店に設置した装置、調査会社の保有するシステム(仕組み)を活用し、データを収集する調査</li> <li>1)にはモバイル(携帯電話)調査も含まれる</li> <li>3)には装置設置型の継続パネル調査も含まれ、視聴率調査、スキャン方式の小売店・消費者調査などが該当する。他にオートコール電話調査、FAX調査、アイカメラ購買行動調査などが含まれる</li> </ul>
D	定性調査	1)グループインタビュー, 2)デプスインタビュー, 3)オンライン定性調査, 4)エスノグラフィー調査

「X: アクセスパネル」の追加を検討

## ② MRデータ収集サービス

P	定量調査データ収集	上記区分の定量調査(A,B,C)に対応する実態調査
Q	定性調査データ収集	上記区分の定性調査(D)に対応する実態調査

# Summary – 2017年度事業計画のポイント –

---

- ◆ **ISO20252改訂への貢献、認証取得の促進**  
(ISO19731、アクセスパネルの認証スキーム等検討を含む)
- ◆ **公的統計参入機会拡大等、市場拡張への貢献**



**委員会改選期にあたり、  
参画いただける方々を  
募集中です！**